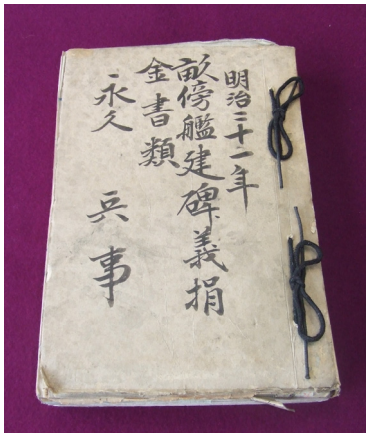
畝傍艦建碑義捐金書類



海軍省の拡張計画に基づき、三隻の巡洋艦の建設計画がなされましたが、畝傍艦はそのうちの一隻でありました。

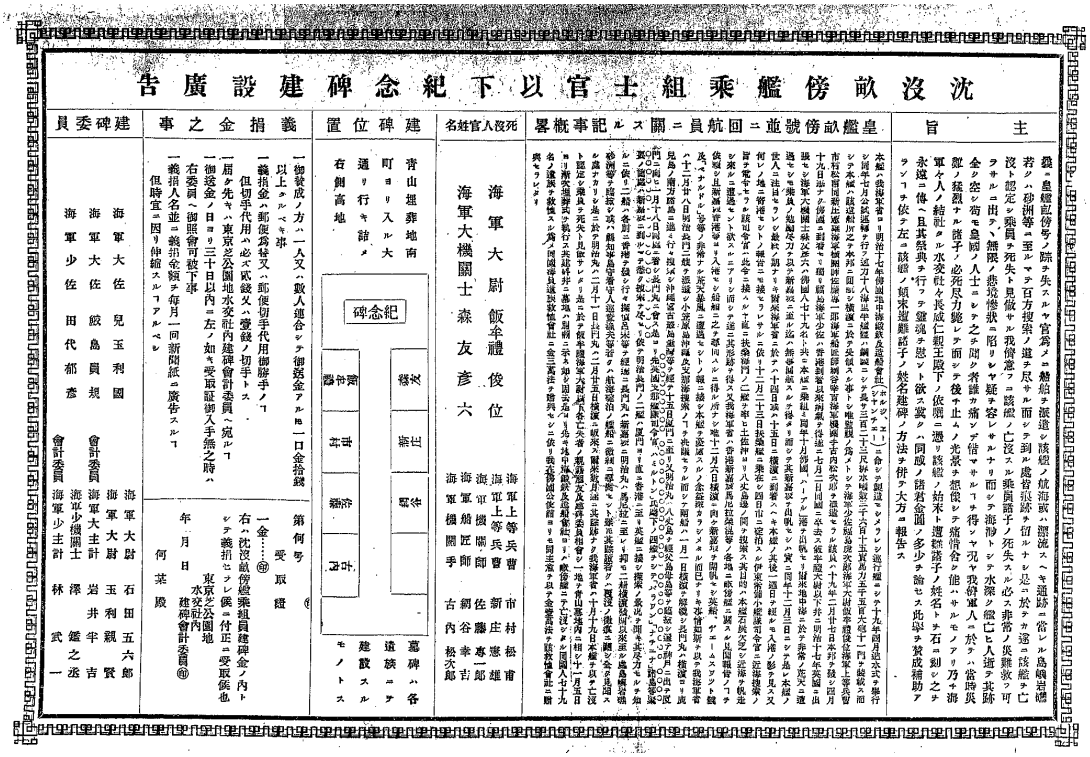
この畝傍艦は、明治１７年に仏国の造船会社ホルジ・シャンチェーに発注し、１９年４月に進水式を行い、同年７月に公式運転を終えて、同年１０月に海軍大尉飯牟禮俊位以下７名と仏国人７９名が乗り組み、仏国のハーブル港を出帆し日本へ回航されることになりました。

この畝傍艦は、明治１９年１２月３日に最後の寄港地シンガポールを出帆し、同年１２月１４日か１５日に横浜に到着する予定でありました。しかしながら、畝傍艦は、予定日を１週間過ぎても入港しませんでした。

海軍省は、小笠原島、沖縄などの航海域等を島嶼、岩礁及び砂洲等に至るまで八方手を尽くしましたが、畝傍艦の痕跡を見つけることができませんでした。

その後、１２月６日にシンガポールを出航し、横浜に到着した英船のヂェームスワット号及びベナルドル号等より荒天暴風に遭遇したとの報告も有り、海軍省は畝傍艦が沈没したものと認定しました。

歴史的文書閲覧室が保管している「畝傍艦建碑義捐金書類」の中に「沈没畝傍艦乗組仕官以下紀念碑建設廣告」があり、①主旨、②皇艦畝傍號並ニ回航員ニ關スル記事概畧、③死没人官姓名等が記載されています。



沈没畝傍艦乗組士官以下紀念碑建設廣告

主旨

皇艦畝傍號並ニ回航員ニ關スル記事概畧

死没人官姓名等

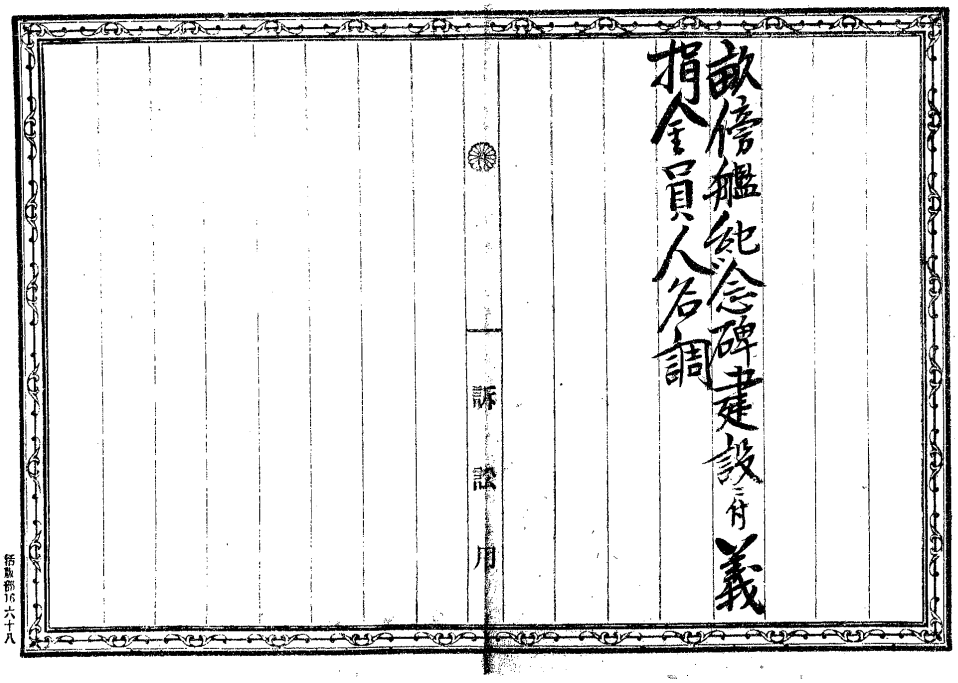
建碑位置

義捐金之事

建碑委員

[illegible]

これを受けて、県では畝傍艦の沈没を悼み、各郡役所及び各警察署を通じて広く義捐金を募り、取りまとめ送金しています。



なお、畝傍艦紀念碑は、東京都港区の青山霊園に建碑されています。